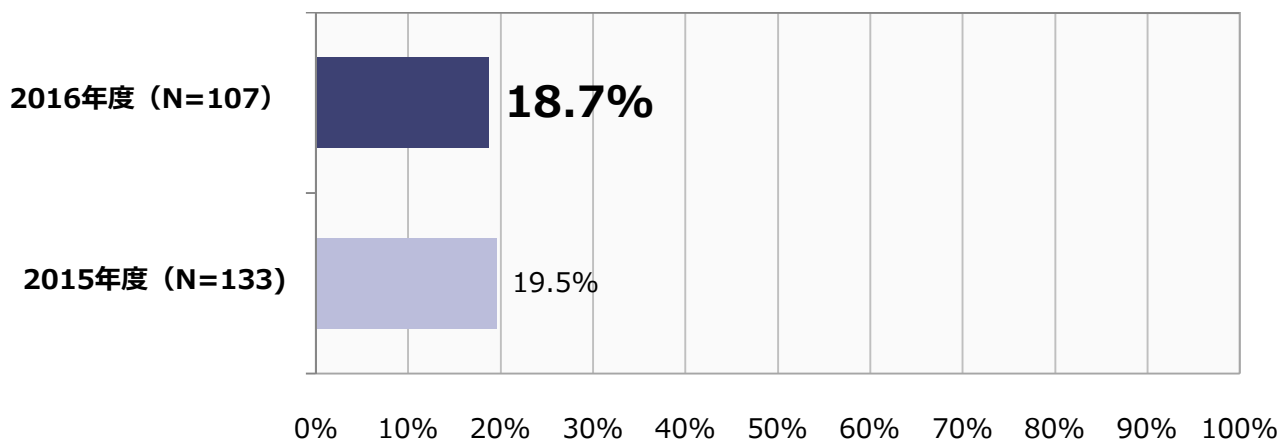


# 肝癌局所療法（ラジオ波 エタノール注入）局所再発率

肝癌の局所療法において局所再発は予後不良の因子であることは学会レベルで広く言われていることです。当院にて施行する肝癌局所療法での局所再発率を低下させることが患者さんの予後改善につながると考えられます。



## 当院値の定義・算出方法

**分子：** 3 c m以内の肝細胞癌の局所再発した局所療法の件数  
**分母：** 3 c m以内の肝細胞癌の局所療法施行者数

$$\frac{\text{分子}}{\text{分母}} \times 100 (\%)$$

※グラフ中のN数は分母の値を示しています。

## 改善のためのとりくみ

個々の症例においてセーフティ・マージン（安全領域）をしっかりとって焼灼する必要があります。（セーフティ・マージンとは：がんは肉眼的には正常に見える周囲の組織に細胞レベルで広がっている可能性があるため、がんの周囲の正常組織も含めて焼灼する必要があります。「ここまで焼灼したら再発しないだろう」という組織範囲をいいます）

文責：肝臓内科主任部長  
森園 周佑